

第18回みちのくウイルス塾講演予告…聴講のツボ

1. 大分大学医学部脳神経外科助教 札幌 博貴先生：「遺伝子組み替えウイルスによるがん治療」

学生時代に大分からウイルスセンターに基礎修練で来てウイルス学に興味を持ち、卒業後腫瘍のウイルス療法の開発を目指して、臨床と非臨床の研究の道に進んだ先生で、米国留学の前に登壇していただきます。これまでのウイルス療法の歴史、発展と、国内の臨床試験、治験の結果、また若手研究者としての、非臨床における遺伝子組換えヘルペスウイルス1型の研究について話していただきます。

2. 国立感染症研究所ウイルス一部第二室（アルボウイルス室）室長 林 昌宏 先生：

「近年のジカウイルス感染症の流行域の拡大」 来年は、東京オリンピック。思い起こせばこの前のリオのころ、この感染症が、大きな話題となりました。それによる多勢の小頭症の患者の発生は衝撃的でした。その後この感染症の研究はどのように進展したのでしょうか。疫学と病態についての知見をお話ししていただきます。

3. 東北大学大学院環境科学研究科准教授 佐野 大輔先生：「水インフラとノロウイルス進化」

ノロウイルスの進化に最も影響を与えているのは免疫圧力ですが、それ以外に浄水・下水処理などの水インフラも関わる可能性があるそうです。水環境中にノロウイルス吸着性細菌が存在するという事実も含め、ノロウイルスの進化に水環境・水処理がどのように関わっているかを紹介していただきます。

4. 高知大学農林海洋科学部 海洋資源科学科海洋生命科学コース教授 長崎 慶三先生：「海洋の悪いウイルス 良いウイルス」

昨年武村先生のお話が続く環境のウイルスのお話です。海の中には膨大な数のウイルスが浮遊しており、一部はプランクトン細胞に感染しやがて細胞内で大量の子孫が増殖します。ウイルスは宿主を殺し、宿主はウイルスを増やす。もしそれだけの関係だったら宿主は死に絶え、ウイルス複製の場はなくなってしまうはず。しかし、実際はそんなことはありません。赤潮とウイルス、ウイルスと宿主の平和共存などのトピックを通じ、海洋のウイルスワールドを紹介していただきます。

5. 国立感染症研究所ウイルス二部第二室室長 清水 博之先生：「世界ポリオ根絶計画の進捗と停滞」

WHO 主導の世界ポリオ根絶計画の進捗により多くの国地域ではポリオ流行はコントロールされています。その一方、残された地域では患者数増加やテロ等の影響で危機的状況が続いており、また、経口ワクチン(OPV)由来のポリオ流行が世界各地で多発しています。この計画の歴史は、良い意味でも悪い意味でも多くの示唆に富んでおり、世界的感染症対策を考える上で大変貴重な教材とのこと。根絶計画最終段階で生じている多様な課題を克服し世界的根絶を達成するため何が必要なのか、一緒に考えましょう。

6. 国立成育医療研究センター・レジデント 今村 忠嗣先生：「エンテロウイルス D-68 (EV-D68)

わかっていること・わかっていないこと」 東北大学のMD・PHDコースで、このウイルスをテーマに仕事をした先生です。EV-D68が注目されるようになった近年の世界的流行、さらに呼吸器から中枢神経の疾患までの多彩な臨床像と、その根底にあるウイルス学的特徴や動物実験等の今後の研究の展望を話していただきます。

ご注意 本年度のみちのくウイルス塾の会場は、新病院です。病院に入ってホール中央、ガラス張りのエレベーターで3階の大講堂へどうぞ。（以上、文責 西村）